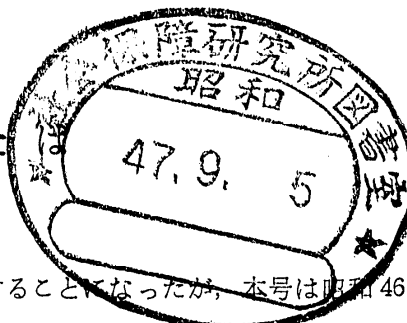


刊行のこと



例年のとおり『季刊・社会保障研究』（別冊）を刊行することになったが、本号は昭和46年度に本研究所が主催した「社会保障研究基礎講座」および「社会保障研究所シンポジウム」の講義録・報告を中心に収録することにした。

「社会保障研究基礎講座」は昭和46年で7回と回を重ねてきているが、これには約80人近い人びとが参加して熱心な研究が行なわれた。これには全部で9つの講義の他に4つのケース・スタディがもたれたが、本号には5つの講義のみを掲載した。その他の講義は「社会計画と厚生行政」（柳瀬孝吉）、「財政と社会保障」（橋本徹、この内容については本誌7巻3号に掲載している）、「医療保障の問題点」（地主重美）、「地域開発の問題点」（伊藤善市）であった。これらは一部他に掲載したり、昨年の別冊にも同じ趣旨のものを収録した関係で、本号では割愛させていただいた。なお東京都、栃木県、新潟県、宮城県の4都県から興味深い「地域計画」「福祉計画」などの発表をいただいたが、紙幅の関係でこれまた割愛せざるをえなかった。このケース・スタディについては、いままでの報告と合わせて、別途に紹介したいと思っている。

また昭和47年2月に実施された「社会保障研究所シンポジウム」は、最近の経済情勢の変化のなかで、福祉についての関心がにわかに高まっている点に鑑み、午前の部は「経済情勢の変化と社会福祉」ということを主題にして研究・討議を行ない、午後の部では、これまた人びとの関心を集めている医療問題に焦点をあて、「医療問題の論点」ということでの討議を行なってきた。この報告およびこれについてのコメントは、速記録をもとに、発表者に補筆・訂正をふくんで目を通していただき、討議の部分については編集部で整理させていただいた。

ここに収録したものは以上のとおりであるが、いずれも今日の社会保障・社会福祉などを考える場合に参考になるところも少なくないであろうという気持ちで、このようなやり方をとった。

これらの講座およびシンポジウムに御協力いただいた諸先生に、この機会にあらためてお礼を申し上げると同時に、とくにあらためて筆を入れる御面倒をおかけした先生方には、お詫びと謝意を表したい。

昭和47年 夏

社会 保 障 研 究 所